2022年度　放課後等デイサービスガイドライン自己評価結果

令和5年7月28日公表

１、自己評価実施について

〇実施期間　2023年1月23日～3月31日

〇回答数　保護者評価　15（17家庭中）

　　スタッフ自己評価　　15（17人中）

〇回答数内訳　別紙

２、評価の分析

【保護者の評価】

〇施設・設備の整備について

指導員の配置に「わからない」が2件。施設・備品の損壊に「わからない」が2件。他事業所などとの比較対象がないこと、保護者によっては、直接活動の様子を見る機会が取れないことが理由と思われる。手厚くみてくれているという意見もあるので、指導員体制は評価されている。

感染対策を取りながら、保護者会や親子活動などを再開したことで、実態が見えるようになってきたことが要因と思われる。

〇活動の全体状況の整備

全体的に良い評価がされている。個別の意見でも、活動や個々の発達段階に合わせての対応が評価されている。保護者会内での活動報告や、日々の迎え、送迎時の引継ぎでの様子を伝える際に、やったことだけでなく、こんな出来事があったという具体的に伝える取り組みが、保護者の理解につながったと思われる。

〇保護者との関係づくり

苦情に関して「わからない」が2件、意見欄にある「苦情は出していないので～」から、実際に必要な状況になったことがないので、実感していないということが「わからない」という回答になっていると思われる。

引き続き保護者とのコミュニケーションは緊密に行っていきたい。

【スタッフ自己評価】

〇施設・設備の整備

各項目、わからない、いいえが複数名、特に部外者の侵入に関しては、スタッフでの配慮はしているが、換気のために窓やドアを開放していることもあり、未然に防ぐには不十分という評価。

〇活動の全体状況の整備

各項目、わからない・いいえが数名いる。各種マニュアル等は策定しているが、周知が十分でないこと。研修については、行っているが、受けられるスタッフとそうでないスタッフがいることなどから、自身で十分に理解・実践が出来ているかわからない、という評価になっているものと思われる。

〇実践的な力量の向上

わからないという評価はあるが、意見では前向きに子どもたちに向き合おうとしている意見が多い。

肯定的な事実の意味付けや、大人の育ちの項目に関して、「わからない」の意見は、自身の支援を謙虚に評価している結果と思われる。研修については、日程が合わず参加できないと言う意見が多く、参加の希望が見られる。
全体を通して、支援に関しての難しさを感じている意見は多く、それらの解消に研修など、学びの機会を得たい、支援の向上を目指している。

〇保護者との関係づくり

保護者の思いや願いの汲み取りでは、意見欄にある通り直接会う機会・時間が限られているので、その中で保護者との共感や理解を得るのが難しいと感じるスタッフも多く、汲み取ろうとしているが、結果が明確ではないものなので、わからないという評価になっているものと思われる
保護者の父母会への協力、親子・家族行事については昨年度同様コロナ禍の影響もあり、中止や規模の縮小、変更が多く、意見にある難しい状況がそのまま反映されているものと思われる。意見にある通り参加しやすいやり方の検討が必要

〇関係者・関係機関との連携

各項目でわからないという評価が多い。関係機関との情報は伝えているが、どことのどんなやりとりでの情報なのか、までは具体的に伝えていないので、どんな関係者・機関があるかわからないことが理由と思われる。
特に学校行事や地域づくりなど、対外的なことに関しては受け入れ側の都合も関わり、やり易いと言える状況になく、わからない、いいえという意見が多く出るのもやむを得ないと考える
協力医療機関に関しては、あるのだが、利用する機会がなかったことでわからないという意見になっていると思われる。

３、改善目標

〇保護者の評価

ほとんどの保護者が活動を評価してくれている。日々の活動の充実はもちろん、一人一人の子どもを軸にして、保護者とスタッフで認識を共有できるように、保護者会や面談だけでなく、日常的な送迎時の伝え方など、限られた時間の中でも、様子や変化などを簡潔にでも伝えあえるコミュニケーションの機会として充実させていく。
昨年に比べてわからないなどの評価が減ったことは親子行事などの再開をしたことで、スタッフや学童への理解が高まった結果だと言える。スタッフとだけでなく保護者同士でのコミュニケーションが取れる機会も確保し、保護者の横のつながりを深め、保護者同士でも子育ての悩みや喜びを言いあえる関係づくりにつなげていく。

〇スタッフ自己評価

部外者の侵入については、感染症対策のための開放は避けられないので、来訪者対応マニュアルの整備、防犯グッズの整備を実施
活動の全体状況の整備については、シフト上で参加が難しいスタッフも訓練、研修ができるように全体の研修だけでなく、個別での実施もしていく。また、マニュアルの周知を改めて行っていく。
実践的な力量の向上については、子どもの課題やスタッフ同士の支援の価値観を共有する機会とし

て、前述と同様研修などへ参加できる機会を可能な限り増やす、研修へ参加したスタッフの報告を行い、集団での議論を通して、子どもへの理解と支援への自信が深まっていくように取り組んでいく。
保護者との関係づくりについては、日常的にかかわれないこともあるので、新型コロナ感染症の流行の状況も鑑みながら、スタッフと保護者が顔見知りになれる機会を増やしていく。
関係者・関係機関との連携については、子どもの情報共有の際、どういった関係者からのものであるかも伝えることで、直接関わっていないスタッフでも、関係者との連携が自覚出来るように努める。